

私は神戸で育ったので、幼いころから防災訓練とともに震災学習がありました。また、当時祖父母が神戸に住んでいたため阪神・淡路大震災のころの話を実際に聞くことも多くあり、阪神高速が倒れていたり、広い範囲で火事が起こっていたということは知っていましたが、菅原市場やビルの倒壊の写真はあまり見たことがなく、今回改めて知ることができてとてもよかったです。

また、年表などで阪神・淡路大震災と地下鉄サリン事件が同じ年に起きたということは知っていましたが、今回の講義で改めてたった2カ月しか変わらないという点に加え、他県の新聞社などの記者は地下鉄サリン事件の報道を行うために帰ったという話を聞き、仕方がないことであるのは理解できますが、少し複雑な気持ちにもなったので、神戸新聞のように地元に関わる新聞社があるということはとても大切なことだと感じました。

フェイクニュースの件で、私も実際に熊本地震のときのライオンが逃げたというものはテレビのニュースで紹介されていたので知っていましたが、今回の能登半島地震でSOSをXなどのSNSで出している件については生で見えていました。

良かれと思って拡散したものがフェイクで、むしろ被害にあっている方々にとって邪魔になってしまっている可能性があると考えたらとても怖いですし、安易に情報が拡散される世の中なので、自分の行動ひとつひとつに気を配り、慎重にならなくてはならないということはとても難しく大変ですが、今の時代には必要な技術なので、きちんと自分の行動に責任をもつことの重要性を改めて考え直すことができました。

今日の講義をお聞きし、前回ドラマを見て、地震の怖さを改めて感じました。いつ南海トラフが起こってもおかしくないをよく聞きますが、学んだことを生かせるのか、その場に居合わせて自分が動けるかというのは全然分かりません。ですが、今日のお話や画像を聞いたり見たりして、後悔のないようにする為に学び、自分に出来ることという事を考えていきたいなと思いました。

災害では助かったのに、災害関連死、災害によるショックや厳しい避難生活などの間接的な要因から亡くられる方が沢山おられると知り、災害が起こると自分のことで精一杯になると思いますが、同じ現場で居

合わせた人同士が支え合ったり、気持ちを分け合えることで減るものなのかな、どうしたら減らすことができるのかなと思いました。

神戸新聞は、神戸の大空襲、阪神・淡路大震災や米騒動など3度の危機を乗り越え長い歴史が続いていると知り、神様に守られているのかなと感じるレベルだなと思いました。これからも神戸新聞が続けばいいのになと思いました。

犠牲者の生きた証を残すことが大切だとおっしゃっていました。その通りだと思います。犠牲者さんのことをいつまで経っても忘れず、記憶に刻むことができると思います。

たくさんの貴重なお話を聞くことができ本当に良かったです。

ありがとうございました。

災害報道について、普段からミスなく報道することが求められるが災害時はケアレスミスにより注意を払う必要がある、という言葉が印象深かった。ドラマでも人々が新聞から情報を得ようとしていたことから感じたように、新聞は確実な情報を受け取ることができる便利なツールであるのだと思った。正しい情報であるという点が、嘘か本当かわからない情報も流れてしまうSNSとは違うと思う。そのためにも、新聞は常に少しのミスもなく情報を伝えることが大切なのだわかった。また、貴重な新聞の復刻版を読み、当時の混乱した状況がありありと伝わってくるようで、大変な中でも新聞を作り続けた神戸新聞の方々は本当にすごいなと改めて感じた。

新聞が完成するまでの過程も印象に残り、特に印刷機で1時間に18万部も刷ることができる、というのが驚いた。現在、新聞の発行部数はどんどん減っているとのことだったが、取材によって裏付けされた情報を私たちが得られるのはとても重要だと思うので、これからも残っていてほしいメディアだと思う。